

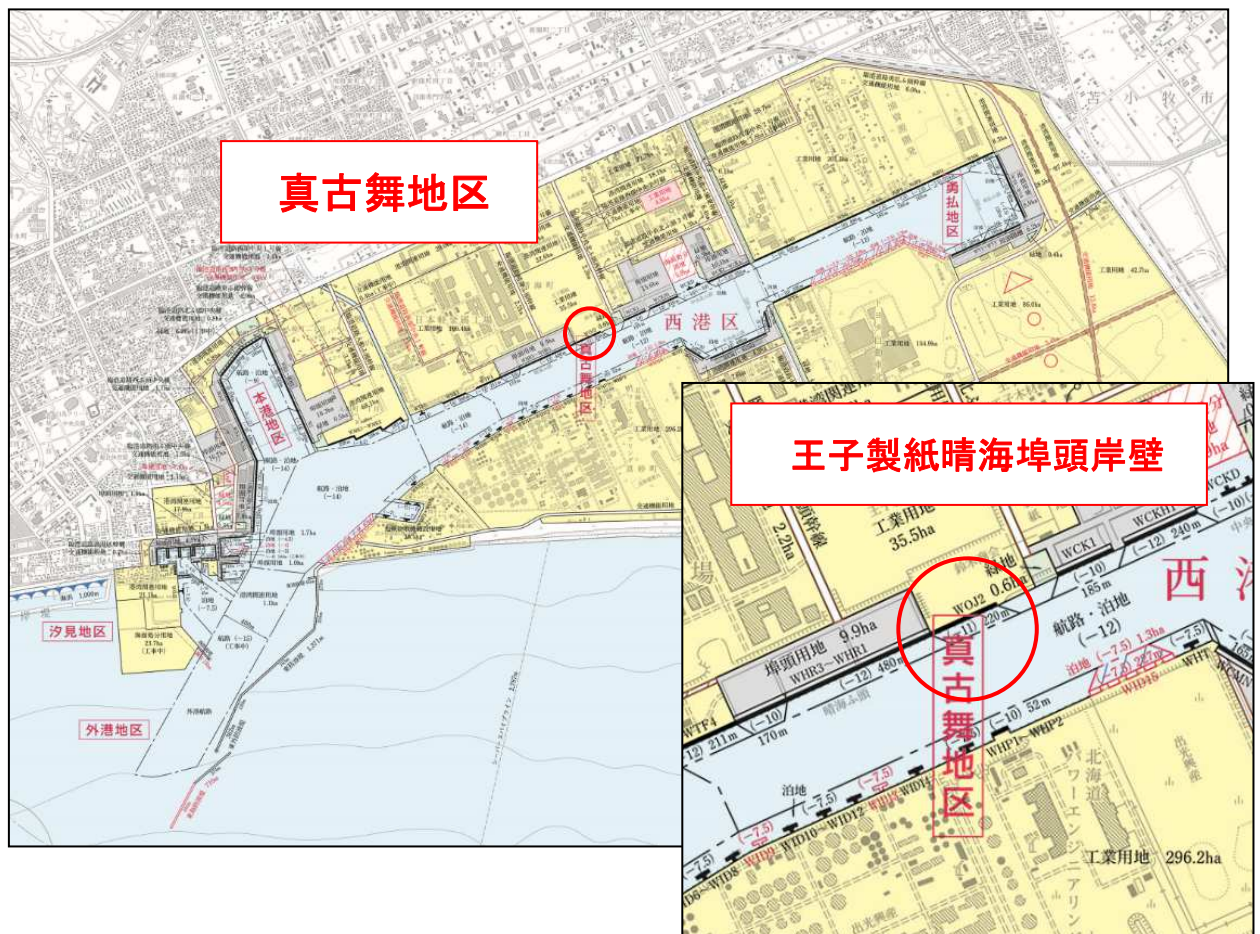
苫小牧港港湾計画（軽易な変更）（案）

立地企業の要請に対応するため、専用埠頭計画及び水域施設計画を変更する。

1. 港湾計画変更箇所

変更箇所は苫小牧港西港区真古舞地区の王子製紙晴海埠頭岸壁である。なお、図－1にその位置を示す。

図－1 位置図



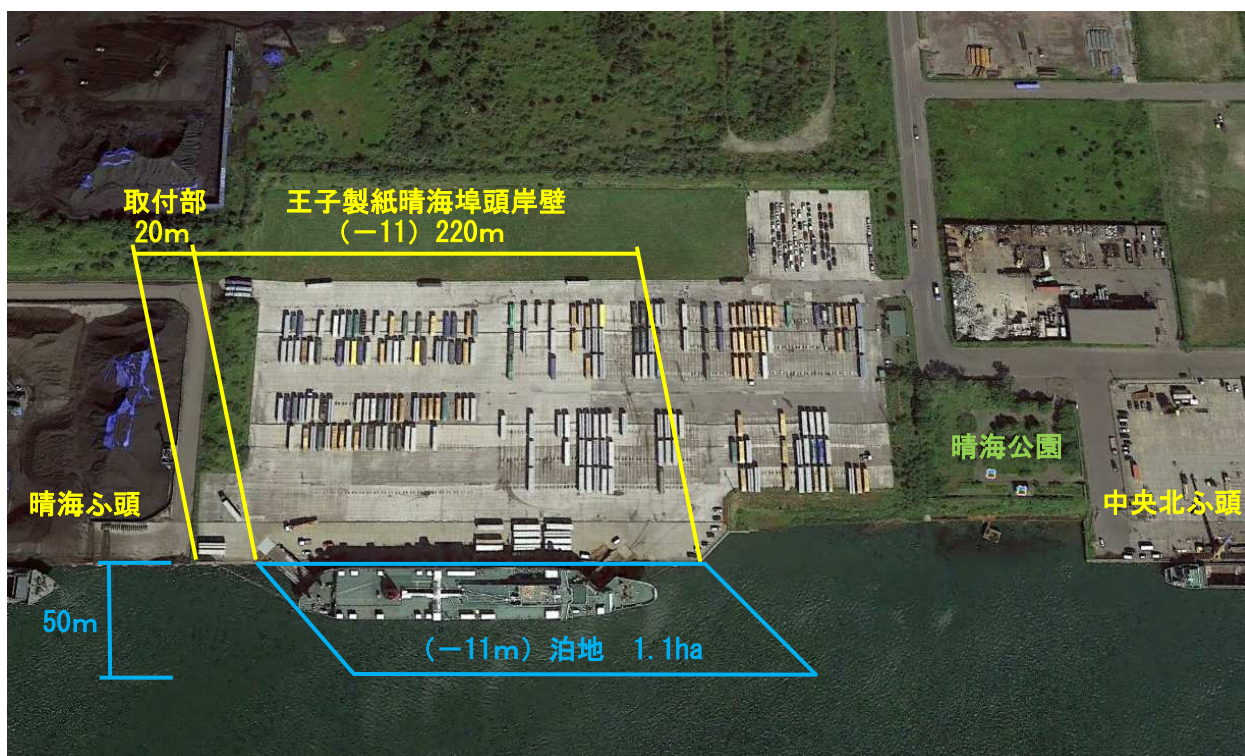
2. 港湾計画の変更内容

王子製紙晴海埠頭岸壁の変更内容を表－1に、現況及び計画配置図を図－2、図－3に示す。

表－1 変更内容

	既設	今回計画
岸壁	水深11m L=220m	水深11m L=300m
泊地	水深11m	水深11m A=0.3ha

図－２ 現況配置図



図－３ 計画配置図



3. 港灣計画の変更理由

- ① 王子製紙(株)苫小牧工場のマシンは計 8 台が稼動し、年間約 100 万トンの紙製品が生産されている。このうち、新聞用紙は日本で作られている約 3 割を生産する世界最大規模の新聞用紙生産工場となっている。
- ② 生産された本州向けの「新聞用紙」や、紙の生産の原料となる「古紙」の移入は、主に RORO 船やフェリーを利用して海上輸送されている。この中でも取扱量の多い関東地区とは、王子製紙晴海埠頭岸壁から苫小牧⇄東京を運航する RORO 船 3 隻により週 6 便輸送されている。
- ③ 現行 RORO 船による輸送サービスを開始してから 18 年が経過し、運航船舶の老朽化が進んでいる。このため、省力、省エネ、省メンテなど地球環境に配慮した RORO 船へ代替することが必要となっている。
- ④ トラックドライバーの高齢化や人手不足などにより、トラックでの長距離輸送が困難な情勢となっている。このことから、海運によるモーダルシフトをさらに推進していくことが必要となっている。

老朽化が進んでいる RORO 船（全長 約 170m）のリニューアルに伴い、大型化する新造 RORO 船（全長 約 190m）に対応した、係留施設及び泊地の変更を行う。

圖一 4 專用埠頭計畫圖

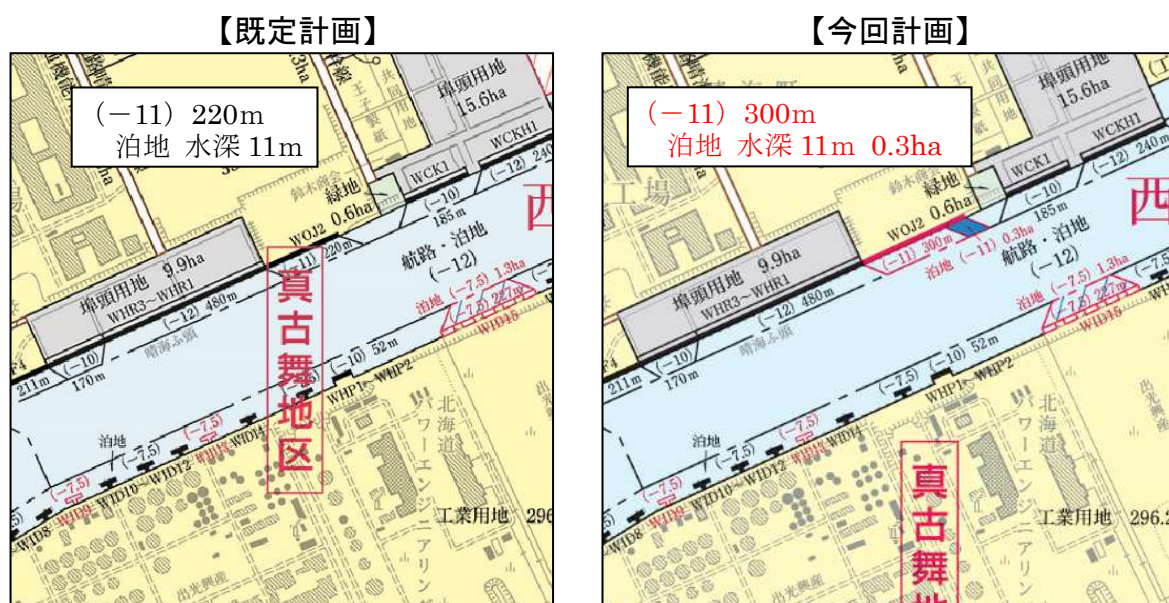
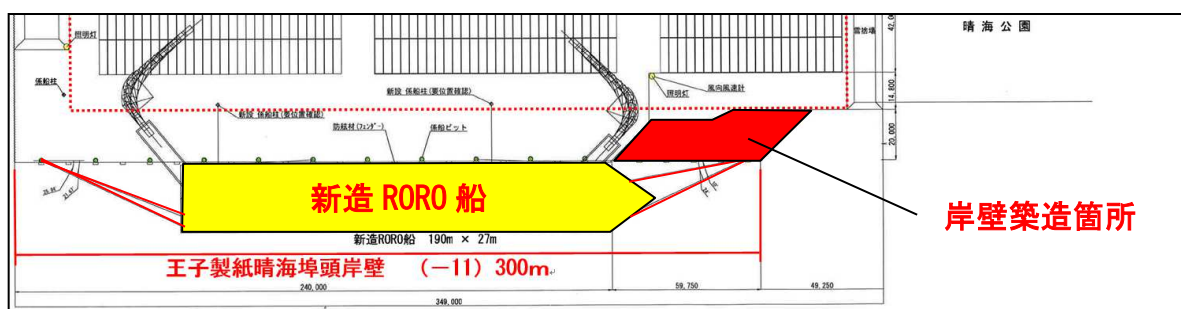


図-5 係留配置計画図



4. 参考資料

表－１ 王子製紙晴海埠頭岸壁を利用する船舶のリニューアル

リニューアル前						リニューアル後					
船名	総トン数 (GT)	全長 (m)	型幅 (m)	満載喫水 (m)	竣工年月	船名	総トン数 (GT)	全長 (m)	型幅 (m)	満載喫水 (m)	更新 予定年月
とかち	9,858	167.72	24.0	7.22	H14.11	新造RORO船	約13,000	約190m	27.0	7.10	H31.6
王公丸	9,925	167.72	24.0	7.22	H11.11	新造RORO船	約13,000	約190m	27.0	7.10	H31.11
神王丸	11,790	160.52	24.0	7.01	H11.11	新造RORO船	約13,000	約190m	27.0	7.10	H32.3

写真－１ 王子製紙晴海埠頭岸壁に係留する RORO 船（とかち）と背後ヤード



写真－２ 王子製紙晴海埠頭岸壁に係留する RORO 船（王公丸）



写真－３ 王子製紙晴海埠頭岸壁に係留する RORO 船（神王丸）

